

平成23年度

橋梁技術発表会及び講演会

— 鋼橋技術の進化と継承 —

参加費無料
定員 **650名**
申込先着順

13:00~13:10

開会の辞

社団法人日本橋梁建設協会
会長 屋間 祐治

13:10~13:40

橋建協報告

東日本大震災 被害調査報告

東日本大震災復興対策本部

平成23年

日時

10

金

14

13:00~17:40

会場

銀座ブロッサム(中央会館)ホール

〒104-0061 東京都中央区銀座2-15-6

Tel.03-3542-8585

申込方法

- ①Fax. 03-3507-5235(裏面の用紙に記載)
- ②ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受付」まで(受付は9月初旬から)

申込期限

平成23年9月30日(金)

懇親会

銀座ブロッサム7階「マーガレット」にて17時50分から開催します。
参加ご希望の方は、発表会当日受付にてお申し込みください。

連絡先

社団法人 日本橋梁建設協会
〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11
西新橋光和ビル9階 Tel. 03-3507-5225

継続教育

CPDS認定予定

※大阪地区は 10月28日(金) ドーンセンター
東北地区は 11月 8日(火) 仙台国際センター
中部地区は 11月15日(火) 東建ホール・丸の内
九州地区は 11月25日(金) 福岡商工会議所 開催です。

申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

発表原稿のPPTはホームページに掲載しますので、ご希望のかたは
ダウンロードするをお願いします。

アクセス



- 東京メトロ有楽町線「新富町駅」1番出口 徒歩1分
- 東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線「東銀座駅」3-5番出口 徒歩8分

第1部:技術発表会

13:40~14:20

1.機能分離型支承の選定と 鋼床版端部構造の提案

—機能分離型支承の採用にあたっての留意事項と
耐久性を考慮した鋼床版の伸縮装置取付け部の一提案—
技術委員会 設計小委員会 福岡 利之

14:20~15:00

2.Huey P. Long橋(米国・ルイジアナ州) 工事報告

—トラス橋拡幅(新旧トラスの一体化)工事における
製作・架設・プロジェクト運営について—
企画委員会 国際小委員会 中山 岳史

15:00~15:10

休憩

15:10~15:50

3.海外における鋼床版橋梁の 疲労に関する現状

—デッキプレートと閉断面リブ溶接線の疲労損傷について—
技術委員会 鋼床版小委員会 井口 進

第2部:伊藤學賞表彰式

15:50~16:05

1.表彰式

16:05~16:25

2.受賞者挨拶(伊藤學賞受賞者)

16:25~16:35

休憩

第3部:特別講演会

16:35~17:35

1.公共事業が日本を救う

京都大学大学院
工学研究科 都市社会工学専攻
教授 藤井 聡



17:35~17:40

閉会の辞

橋梁技術発表会実行委員会 委員長 金原 慎一

1 機能分離型支承の選定と鋼床版端部構造の提案

ー機能分離型支承の採用にあたっての留意事項と耐久性を考慮した鋼床版桁の伸縮装置取付け部の一提案ー

ゴム支承の小型化とコスト縮減を目的に開発された機能分離型支承において、作業空間が狭くなることや水平支承据付け施工の煩雑などが問題になっている。そこで採用決定の一助として施工性・維持管理上の問題点を整理し設計時の参考資料としてまとめた。鋼床版桁の伸縮装置においては以前より漏水や振動による高力ボルトの腐食や緩みが報告されている。これらの弱点をなくし耐久性向上を主眼とした新しい鋼床版桁端部構造の設計例を提案する。

2 Huey P. Long橋(米国・ルイジアナ州)工事報告

ートラス橋拡幅(新旧トラスの一体化)工事における製作・架設・プロジェクト運営についてー

Huey P. Long橋はアメリカ南部のルイジアナ州ニューオリンズ近郊に位置しており、1935年に供用開始された鉄道道路併用橋梁で3径間連続カンチレバートラス橋と単純トラス橋からなる。本工事は、老朽化した既存トラス橋を補強し且つ新トラスを既存トラスと一体化させ拡幅を図るものである。本報告では拡幅工事の特徴や問題点を中心に、製作・架設・プロジェクト運営等に関しアメリカと日本との違いを含めて紹介する。

3 海外における鋼床版橋梁の疲労に関する現状

ーデッキプレートと閉断面リブ溶接線の疲労損傷についてー

重交通路線に位置する国内の鋼床版橋梁において疲労損傷が発生し、種々の補修・補強対策が施されています。近年、鋼床版小委員会では海外の鋼床版にも目を向け、2008年に鋼床版会議(Orthotropic Bridge Conference)、2010年に日独橋梁シンポジウムへ参加しました。さらに、デッキプレートと閉断面リブ溶接線の疲労に関しては、2005年にオランダにおけるデッキプレート貫通き裂、本年4月にはイギリスにおけるビード貫通き裂の現況調査を実施しています。ここでは、これらの調査結果を元に、海外におけるデッキプレートと閉断面リブ溶接線の疲労損傷の現状について報告します。

特別講演会 講演者紹介

1 公共事業が日本を救う

ー略歴ー

1968年 奈良 県生駒市にて生まれる。
1984年 大阪教育大学教育
学部付属高等学校平野校舎入学
1987年 京都大学工学部土木工学科入学
1991年 京都大学大学院工
学研究科修士課程土木工学専攻入学
1993年 京都大学工学部
(交通土木工学教室・起終点施設学研究室)助手
1996年 京都大学大学院工 学研究科(土木システム工学
専攻・社会システム工学講座) 助手
1998年 京都大学 博士(工学) 取得
1998年 スウェーデン・イ エテボリ大学心理学科
認知・動機・社会心理学研究室 客員研究員
2000年 京都大学大学院工 学研究科(土木システム工学
専攻・社会システム工学講座) 助教授
2002年 東京工業大学大学院理工学研究科
(土木工学専攻) 助教授

2006年 東京工業大学大学院理工学研究科
(土木工学専攻) 教授
2009年 京都大学大学院工学研究科
(都市社会工学専攻) 教授

ー所属学会ー

土木学会(計画学研究委員会)
日本心理学会
日本社会心理学会
応用哲学会
行動計量学会
交通工学研究会
日本社会科教育学会
都市計画学会
認知的統計的意思決定研究会
日本災害情報学会
IAAP:国際応用心理学会
EADM:欧州意思決定研究会

ー研究分野ー

一般論説
土木計画
交通計画
交通工学
社会的ジレンマ
意思決定研究
リスク心理学
生活・交通行動分析
景観・風土・地域愛着研究
社会科学一般

藤井 聡

京都大学大学院
工学研究科
都市社会工学専攻 教授

講演概要

「公共事業は、もう必要ではない」という風潮が、メディアでも学会でも政界でも支配的だ。その空気は、今回の東日本大震災を契機に若干緩和したとはいえ、基本的な潮流はほとんど変わってはいない。しかし、明るい日本の未来のためには、防災的にも、インフラ老朽化対策的にも、そしてマクロ経済的にも、公共事業が必要であることは明々白々である。本講演では、公共事業不要論が如何に不正なデータに基づくモノであり、かつ、公共事業必要論が如何に正当であるかを明らかにする。

FAX番号:03-3507-5235

平成23年度

10月14日(金)

橋梁技術発表会

[東京地区]

参加申込書

所 属

団体名

所属

氏 名

役職

氏名

住 所

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無